

科学的な見方・考え方の基礎を培う生活科の授業づくり

—小学校国語科第1学年「どうぶつの赤ちゃん」との合科的な指導の授業開発—

教育実践高度化専攻
小学校教員養成特別コース
P09065K 小野寺 彩子

1 研究の動機と目的

平成20年版学習指導要領では生活科の学習により「科学的な見方・考え方の基礎」を培うことが求められている。科学的な見方・考え方の基礎を培うことは自然や社会など学習物を対象化して捉えることであり、自分自身への気付き、すなわちメタ認知能力につながる。

しかし、学校現場では子どもたちの気付きを十分に深められていないという指摘がある。その理由の一つとして、体験や表現が目的となっている指導が行われており、子どもたちが自分の気付きについて改めて振り返り、関係付けされる機会が不十分であることが考えられる。換言すると、学習を通して新たな認識を獲得するための手立てが不足しているのである。そのため、教師は学校生活全体の中から、子どもたちが新たな視点で事物を見ることができるようになる教材を見付け、生活科の授業で活用することが求められている。

そこで、本研究で、国語科の教材「どうぶつの赤ちゃん」との合科的な指導を取り入れた、生活科の飼育単元の授業モデルの開発を行うことを目的とする。国語科の読み取りによって高まった、子どもたちの動物の赤ちゃんへの関心を大切にし、学習した比較の視点を、生活科で生かすことができる単元を提案する。開発にあたっては、「見通す」「体験的活動」「リフレクション」の三段階の学習過程を設定し、子どもたちの気付きを比較・分類の活動を通して再構成することで、自然に対する新たな認識を持つことに加えて、自分自身の様子や成長についても意識することができる授業を構成する。

2 研究の方法

- (1) 各教科書会社における生活科の飼育単元を分析し、科学的な見方・考え方の基礎を培う視点からの課題を明示する。
- (2) 「どうぶつの赤ちゃん」の教材分析を行い、国語科として身に付けさせたい学習内容と、合科的指導によって培わせたい生活科の学習内容を整理する。
- (3) 科学的な見方・考え方の基礎を培うにあたっての合科的な指導の意義を明示する。
- (4) 連携協力校での実践を考察し、国語科と生活科との合科的な指導の授業モデルの開発を行う。

3 研究報告書の構成

- 序章 研究の目的と方法
- 第I章 科学的な見方・考え方の基礎を培う視点から見た生活科授業の課題
- 第II章 国語科・生活科の合科的指導の意義
- 第III章 小学校生活科第1学年単元「げんきにそだて」授業モデルの開発
- 終章 研究の成果と課題

4 研究の内容

- (1) 教科書分析による生活科の課題
科学的な見方・考え方を培うという観点での生活科の課題は、以下の二点である。
一点目は、子どもたちに期待する姿が、動物に対して「かわいい」「なかよく」といった、情意面での成長に偏りかねないということである。
二点目は、気付きを深める振り返りの活動の不十分さである。特に、気付きを交流させ深める活動についての記載が限られており、表現自体が目

標となる実践が行われている実態が予測される。

(2) 「どうぶつの 赤ちゃん」教材分析

「どうぶつの 赤ちゃん」は、ライオンとしまうまの赤ちゃんの様子を同じ視点を用いて記述することで、両者の特徴を比較しながら読む構成になっている。特徴に気付くということは事物を対象化して捉えているということであり、読み取りを通して学んだ動物の赤ちゃんについての視点を、生活科で自分の身近な動物や関心の高い動物にも当てはめて考え、特徴を比較・分類する活動を行うことで、子どもたちが動物や、自分自身の成長に対する認識を獲得できると考える。

(3) 国語科との合科的な指導を取り入れた授業モデル開発

図1は「どうぶつの 赤ちゃん」と、生活科の飼育単元との繋がりを示したものである。国語科で学習した視点を踏まえて生き物を観察したり調べたりすることにより、事物を対象化し、特徴を見付け出せるようになると共に、自分自身と対象のかかわりについても意識することができる授業モデルを考案している。

単元の特徴として、子どもたちが予想し、実際に調べ、気付きを深められるよう、「見通す」「体験的活動」「リフレクション」の三段階の学習過程を設定している。更にリフレクションの過程で比

較・分類の活動を通して子どもたちの動物に対する気付きを再構成し、自分自身についても対象化して成長の様子を捉える機会を設けている。

また、子どもたちの気付きがどのように深まっていくかを気付きの深化の過程として提示し、学習を通してどのような認識を子どもたちに培わせたいのかを明確にすることができた。

5 研究の成果と今後の課題

成果の一点目は合科的な指導による授業モデルを考案したことで、学習を総合的な視点で見ることが必要だと認識した点である。二点目は、生活科によって子どもたちの認識が変化することの重要性を自覚した点である。三点目は、気付きの深化過程を示した授業モデルを開発できた点である。

課題の一点目は、生活科との合科的な指導が可能な他教科の教材研究を進めることである。各教科の繋がりを分析することで、学習の生活化または生活の学習化を意識した、子どもたちの実態に沿ったカリキュラム編成に繋がると考える。二点目は授業モデルを現場で検証し、子どもたちの実態に合わせて改善していくことである。三点目は、合科的な指導の授業モデルの開発を進め、総合的な学習のカリキュラム編成にも繋げることである。

修学指導教員 關 浩和

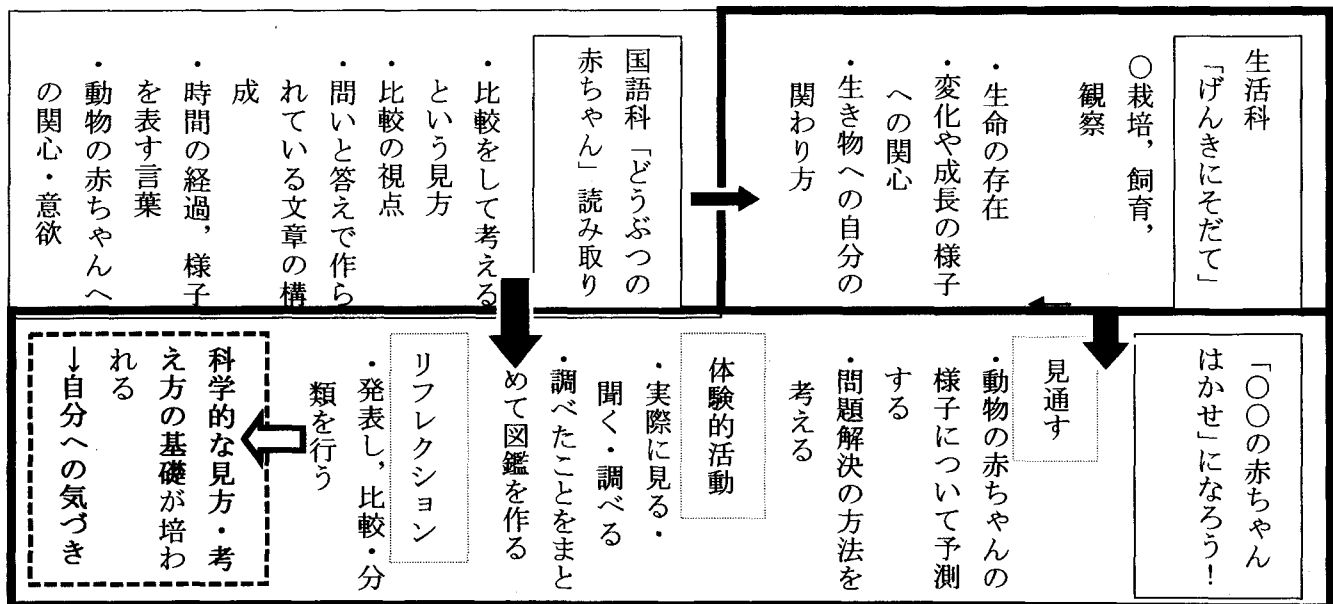


図1 「どうぶつの 赤ちゃん」と生活科の生き物とのかかわりの単元との繋がりを